

<<

ジャズとボッサ・
ノヴァの日々

音楽の旅を続けて50年余りの“音楽探偵”です。DJ気分でお気に入りの音楽をゆくりと紹介しています。ジャズやボッサから、和モノ、エスニックまで。「こんな聴き方あったんだ!」という発見がある、ちょっとマニアックで温かい音楽案内をお届けします。

フォロー



18年 ロンドンの夜に響いた奇跡のブラジリアン・グルーヴ。パーカッションの巨匠アイアート・モレイラの足跡と「今」

♡ 1



ジャズとボッサ・ノヴァの日々

2026年7月2日 06:23

音楽の歴史を振り返るとき、ある一人の登場によって「楽器そのものの役割や概念」がガラリと変わってしまう瞬間があります。パーカッションという楽器において、まさにそのパラダイムシフトを起こした張本人が、ブラジルが生んだ天才パーカッショニスト／ドラマー、アイアート・モレイラ Airo Moreiraです。

今回は、彼が2018年にロンドンの名門ジャズ・クラブで繰り広げた伝説的なライブ映像（YouTubeアーカイブ）を紐解きながら、アイアートが世界の音楽シーンに刻んだ偉大な足跡、そして2026年現在、彼がどのような奇跡を紡いでいるのかをご紹介します。

伝説の夜を追体験する：ロンドン・ロニースcotts公演の記録

今回ご紹介する映像は、イギリス・ロンドンの老舗ジャズ・クラブ「ロニー・スコッツ Ronnie Scott's Jazz Club」にて行われた、アイアート・モレイラ & グルーポ Airo Moreira & Grupoによる白熱のステージです。

- ・ **公演・配信日時**：実際の現地公演は**2018年6月11日**に行われ、翌6月12日の夜（英国夏時間 22:15〜）にかけてライブ配信イベントとして世界に届けられました。アルバム『Aluê』（2017年）リリース後の熱気そのままに、ロンドンの聴衆を熱狂させた至高の夜の記録です。
- ・ **出演者（演者）**：ステージの核となるのはもちろん、**アイアート・モレイラ（Percussion / Vocals）**。そしてこの夜、フロントで圧倒的な存在感を放つ女性ボーカルは、アイアートと最愛の妻フローラ・プリムの遺伝子を受け継いだ実の娘、ダイアナ・プリム Diana Purimです（自身のユニット「Eyedentity」などでも活躍）。バックを固めるのは、シザオン・マシャ

ード (Bass)、ファビオ・レアンドロ (Keyboards)、ヴィトール・アルカ
ンタラ (Sax / Flute)、ジョゼ・ネト (Guitar)、カルロス・エゼキエル
(Drums) という、ブラジル音楽のエッセンスを完璧に体現する鉄壁の布
陣です。

- ・ **ハイライト (57分48秒～)**：映像のこの時間帯で繰り広げられているのは、まさにアイアートの本領発揮とも言える緊迫感と躍動感に満ちたセッションです。彼がひとたびお馴染みのパーカッション群（タンバリンやシェイカー、あるいは手製の特殊な音響具）に触れ、同時に呪術的とも言える野生的な「声」を重ねると、ステージの空気は一瞬にしてブラジルの深い森、あるいは宇宙的な広がりへと変貌します。そこへダイアナ・プリムのみずみずしくも力強いボーカルが絡み合い、バンド全体のグルーヴが最高潮へと達する瞬間は鳥肌ものです。ただのリズムキープにとどまらない、音のテクスチャー（質感）そのものをコントロールする魔術的なアプローチが、この時間にも凝縮されています。



アイアート・モレイラが遺した「足跡」

ここで改めて、アイアート・モレイラという巨人が音楽史にどれほど巨大な足跡（軌跡）を残してきたかをおさらいしておきましょう。

1941年にブラジルに生まれたアイアートは、1960年代後半に妻のフローラ・プリムとともにアメリカへ渡りました。当時のアメリカは、ジャズとロックが融合し、新しい音楽が生まれようとしていた激動の時代。そこでアイアートの才能を見抜いたのが、あの**マイルス・デイヴィス Miles Davis**でした。

マイルスの歴史的な名盤『Bitches Brew』（1970年）への参加を皮切りに、アイアートはジャズ・フュージョンの黎明期を最前線で牽引することになります。ウェザー・リポートの結成メンバーとしての活動や、チック・コリア率いるリターン・トゥ・フォーエヴァーの衝撃的なファースト・アルバムへの参加など、モダン・ジャズ／フュージョン史の決定的な瞬間には、常に彼の音が刻まれていました。

それまでジャズにおけるパーカッションといえば、ラテン・ジャズのコンガのように規則的なパターンを刻むものが主流でした。しかしアイアートは、ブラジルの伝統的なリズムをベースにしながらも、笛、鈴、パンデイロ、さらには独自の口ずさみや叫び声までもを総動員し、音楽に「色彩」と「空間の広がり」をもたらしただけでなく、彼こそが、現代の音楽シーンにおけるパーカッショニストの地位を確立した先駆者でした。

試練を乗り越えて:アイアートの「現在の体調」と創作への復帰

2018年のこの映像で、文字通りステージを縦横無尽に動き回っていたアイアートですが、近年の彼は非常に厳しい健康上の試練に直面していました。

家族によるクラウドファンディング（GoFundMe）での説明によると、2022年頃、アイアートは肺炎を患った後に体力と身体機能が著しく低下。介護者や看護師の定期的な訪問、そして週3回の理学療法を必要とする状態にありました。一時は回復の兆しを見せたものの、その後ふたたび体調が悪化するなど、一進一退の非常に厳しい闘病生活が続いていたのです。一時は日常生活さえ周囲の全面的な支援が必要となり、多くのファンやミュージシャン仲間がその身を案じていました。

しかし、近年のアイアートはそうした逆境を跳ね除け、音楽ファンにとって極めて明るい「創作活動への復帰」という奇跡を見せてくれています。身体機能が「完全に回復した」とまでは言い切れないものの、彼は再びスタジオへと戻り、素晴らしい音楽を生み出す力を取り戻しているのです。

その証拠に、2025年には妻フローラ・プリム、そしてマルチ奏者のリカルド・バセラー Ricardo Bacelarとともに、ブラジル・フォルタレザの「Jasmin Music Studio」での録音に参加。アイアートはパーカッションとヴォーカルでしっかりとクレジットされ、同年8月29日にはシングル曲『Aqui, Oh!』がリリースされました。



さらに、2024年から2025年にかけてリカルド・バセラーとじっくり制作を共にした共同名義のフルアルバム『Maracanós』が、2026年4月24日に世界同時リリースを迎えました。米ジャズ専門誌『DownBeat』の掲載情報によると、アイアート本人はこのスタジオでの制作について、「とても幸せで、創作と休息が同時にできるようだった」という趣旨の極めて前向きで温かいコメントを残しています。

こうした精力的なカムバックを称えるように、米国の国家芸術基金（NEA）は、アイアート・モレイラを「2026 NEA Jazz Master」に選出しました。これは存命のジャズ関係者に贈られる最高位の栄誉であり、公式ページにも彼の名が堂々と刻まれています。

結び：映像の奥にある、永遠のグルーヴ

ロニー・スコッツのステージで、娘ダイアナや素晴らしいメンバーたちと共に音楽の喜びを爆発させていた2018年のアイアート・モレイラ。

大病を患った近年の状況を知るファンにとっては、この映像は少し胸が締め付けられるほどに眩しいものかもしれません。しかし、2026年現在の彼は、病を抱えながらも決して歩みを止めず、スタジオという名の主戦場へ戻り、「私は今も音を紡いでいる」と世界に証明してくれています。



ブラジルのスタジオにて、リカルド・バセラー（左）と並び、穏やかな笑顔を見せる近年のアイアート・モレイラ（右）。厳しい闘病生活やリハビリを乗り越え、再び愛する音楽の現場へと帰ってきたアイアート。その表情には、スタジオで音を紡ぎ出す喜びと、今なお衰えぬ創作への情熱が満ち溢れています。2026年最新作『Maracanós』の瑞々しいサウンドは、まさにこの幸福な空間から生まれました。彼の訪ぐリズムの魔法は、これからも私たちの心を震わせ続けます。

過去の伝説的なライブを観て彼の放つ凄まじいエネルギーに圧倒された後は、ぜひ、2026年の最新作『Maracanós』の瑞々しい響きにも耳を傾けてみてください。アイアート・モレイラというひとつの偉大な生命が紡いできたリズムの足跡は、今この瞬間も、優しく、そして力強く地平を広げ続けています。

Maracanós

amzn.to

1,500円 (2026年07月02日 08:43時点 [詳しくはこちら](#))

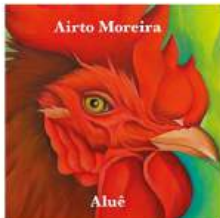
[Amazon.co.jpで購入する](#)



Alue

amzn.to

[Amazon.co.jpで購入する](#)





ジャズとボッサ・ノヴァの日々

フォロー

音楽の旅を続けて50年余りの"音楽探偵"です。DJ気分でお気に入りの音楽をゆるりと紹介しています。ジャズやボッサから、和モノ、エスニックまで。「こんな聴き方あったんだ！」という発見がある、ちょっとマニアックで温かい音楽案内をお届けします。



人気記事

音楽の改革者 #2 エグベルト・ジスモンチの活動を回顧する / 1970年 フランスで収録された『Canto de Ossanha』

 5



モニカ・ゼターランド、ボッサ・ノヴァを唄う

 6



メロウ・グルーヴの底流を読み解く #9 ヒューストンから世界を痺れさせた伝説のグルーヴ:アーチャー・ベル&ザ・ドレルズの真実『Tighten ...

 7



[もっとみる](#)

前の記事

[70年 ズート・シムズ・カルテット、ロサンゼルス](#)のジャズクラブ...

コメント

コメントするには、[ログイン](#)または[会員登録](#)をお願いします。